

2024 年度事業計画

2024年5月
特定非営利活動法人
フードバンクあったか元気便

はじめに

本年度より、向こう3年を目途に松江市内のすべての小・中学校に利用対象校を広げることがめざします。

○市内の対象児童・生徒の8割をカバーする取り組みに

- 1：2024年度は、あらたに二中、母衣小、川津小、朝酌小の4つの小・中学校での取り組みをはじめます。これにより市内の対象児童・生徒の概ね8割程度をカバーする取り組みに広がります。
- 2：のべ2,400世帯、のべ8,700人に、29トンの食品の提供をめざします。また、日常的に食品を提供できる「みんなの冷蔵庫」（仮）設置について具体化の検討を行います。

○課題ごとに「小さな協働」を積み重ねて

- 1：「中学3年生の進路・進学『応援塾』」（共催：NPOスペース、島根大学研究者チーム）は、利用対象校を広げて取り組みます。中学3年生の子どもたちと保護者が集う「15の春をみんなで祝う集い」（仮）を取り組みます。
- 2：島根大学 BBS サークルやサクラ高等学院などとの「協働」で、子どもたちの「学習と体験の場」づくりを拡充します。
- 3：「キッズコンサート」（県立大学研究室）など、主催者等との協力・連携と SMS の活用で「おやこ de 楽しむ体験の場」づくりを、さらに広がります。
- 4：「おたがいさままつえ やすぎ」、「地域つながりセンター」との協働で「おかあさんのためのレスパイト応援」は、のべ利用100時間に利用を広げ、ひとり親に「時間とおじゃべりの場」を提供し「時間の貧困」の改善に向けた取り組みをすすめます。

○利用者増に見合った自力120%アップで、

- 1：フードドライブは、会員団体の業態や組織の特性をいかした新しいスタイルを工夫するなど、お米（玄米ベース）20トン、食品9トンの実現をめざします。

- 2 : 会員団体での取り組みの強化に向け優れた経験などの交流をすすめフードバンクの取り組みが、それぞれの会員団体の「元気度アップ」につながるスタイルを工夫します。
- 3 : 利用者増加と利用者地域の拡大のなかで、パッキング会場や引き渡し会場のあらたな確保を検討します。あわせて、地域団体や住民との親和性のある会場確保などを図り、「地域実行委員会方式」などの取り組みスタイルを工夫し「参加」から「参画」へステップアップを図ります。

○「いつでも・だれでも・どこからでも」応援できる自主財源づくり

- 1 : これまでの取り組みに加え、あらたに「ICカード寄付」「レシート寄付」など、安定した自主財源の確保をめざし、参加しやすい取り組みの具体化を図ります。
- 2 : 「クラウドファンディング」（しまね社会貢献基金・期間 8 月～9 月・目標 150 万円）、「共同募金テーマ募金」（期間 1 月～3 月・目標 100 万円）は、市民参加を広げ達成をめざします。
- 3 : 「あったか元気便応援自販機」は、引き続き 30 台設置に取り組みます。募金箱の設置も引き続き拡充します。

○ もっと「見せる化」、もっと「見える化」で、「認知度アップ」を

- 1 : 「元気便だより」の配布先を広げ、4 千部定期発行で日常的な広報を強化します。会員組織内でも隔々に行き渡る広報活動を工夫します。
- 2 : ホームページの改善を図り、「支える輪づくり」（フードドライブ参加、ボランティア参加団体など）の「見せる化」を充実します。

○他地域展開の「拠点づくり」と「組織のあり方」の検討をはじめます。

- 1 : 他地域での展開を担う「拠点づくり」等にむけて、検討と取り組みを準備します。

○事務局体制の拡充や一時保管倉庫の新設で

- 1 : 利用者増による食品の取り扱い量が増加するなか「一時保管倉庫＋作業場」の新設を図ります。
- 2 : 利用者増と活動領域が拡充するなかで、「後継者づくり」の視点とあわせ事務局体制の強化と実務の改善を急ぎます。

